FMD News

2020年6月発行 Vol.56

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
FMD News Vol.56をお届けいたします。

facebook

FMD OWNER'S CLUB

6月のTOPICS

■ 糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメント が発表されました

日本の糖尿病患者数は、生活習慣と社会環境の変化に伴って急速に増加しています。
米国のFramingham Heart Studyをはじめとした様々な研究で、高血圧、脂質異常症、喫煙に並んで、糖尿病が循環器疾患の危険因子であることが明らかとなっています。
また、その後の多くの研究結果により、糖尿病は動脈硬化を促進させ、心筋梗塞などの虚血性心疾患、脳卒中、大動脈瘤、末梢動脈疾患を惹起することが明らかになりました。
国内の大規模観察研究によりますと、糖尿病患者の約１/３に循環器疾患を認められ、循環器疾患として最初に発症する頻度が最も高いのは、心不全であることが報告されています。
糖尿病は、細小血管の異常によって起こる腎臓病・網膜症・神経障害は血糖の管理によって短期間で抑制されるのに対し、大血管障害に起因する心筋梗塞や脳卒中などの発症を抑制するためには、長期間を必要とします。
そうした中、糖尿病患者が循環器疾患を発症しないために、日本循環器学会、日本糖尿病学会より、糖代謝異常者における循環器病の診断・予防・治療に関するコンセンサスステートメントが合同で発表されました。

◆ステートメントの内容

①診断、②予防・治療、③紹介基準の３つのパートから構成されていて、日常診療指針、また各専門医間での情報共有・相互理解のための指針、両診療科間の紹介基準といった臨床での活用が想定されています。
①診断の動脈硬化性疾患の項には、心血管イベントは糖尿病患者の死因となりうるため、動脈硬化病変が存在するハイリスク群を診断できれば生活習慣の改善や積極的な薬物介入により、予防が可能であることが記されています。
その中で動脈硬化の進展としては、前糖尿病の段階から血管内皮機能の低下が生じるため、血管内皮機能検査としてFMD検査が紹介されています。
また、FMD検査はリスクの集積とともに低下し、ハイリスク患者では将来の心血管イベントを予測できることが報告されているため、血管内皮機能の低下が認められた早期に治療介入できれば可逆的であり、動脈硬化の予防の可能性があると記されています。

株式会社ユネクス
〒460-0008 名古屋市中区栄2-6-1-401

健康へ 血管を意識し 大切な未来へ

0120-939-611（平日 9:00～18:00）

ユネクス 検索
https://unex.co.jp